



2017年8月31日

Vol.103

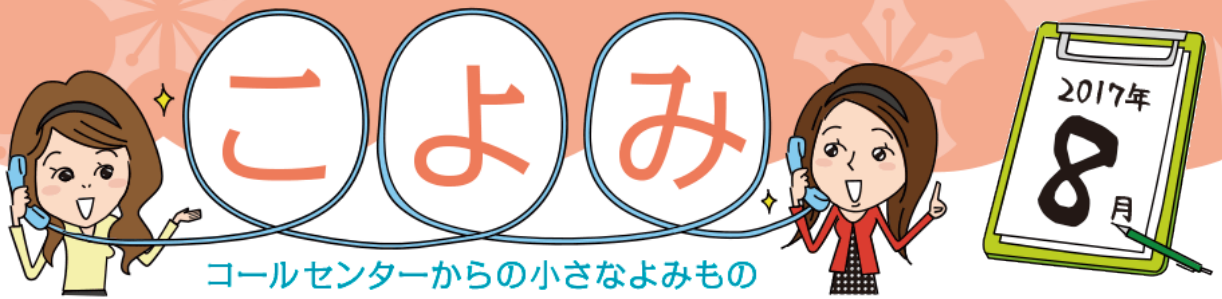
マンスリー
レポート

マンスリーレポート活用術

みなさんは、マンスリーレポートをご覧になったことがありますか？

ファンドの運用状況は運用報告書で確認できますが、年に1回か2回しか作成されないのので、常に鮮度が高い情報とはいえません。それに対し、マンスリーレポートは毎月作成されるため、比較的新しい情報を得ることができます。そこで今回は、マンスリーレポートの活用方法について押さえていただきたいと思います。





マンスリーレポートは、毎月の最終営業日時点のデータを使って、翌月に作成されます。(ファンドにより発行日は異なります。また、一部のETF、DC専用ファンド、財形、ミリオンなど、マンスリーレポートを作成していないファンドがあります。)

マンスリーレポートを確認する際のポイントは、まず「基準価額の推移」のグラフで運用成果全体を掴むことです。この時に大事なことは、分配金込みの基準価額を見ることです。分配金を払い出した後の基準価額はファンドの運用成果の一部に過ぎないため、分配金込みの基準価額によって総合的な実力を見ることができます。また、グラフの形状から基準価額の上げ下げの方向性や、過去の大きな変動があった時期などを押さえるとよいでしょう。全体像が掴めたら、次は「基準価額の騰落率」です。過去1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月、1年、3年などの変化率を見ることができます。そして、設定日や分配方針が異なるファンドを、同じ期間の騰落率で比較することもできます。

また、多くのマンスリーレポートで、1ヵ月の騰落の要因を細分化した「基準価額騰落の要因分解」が記載されています。後方に記載されている運用成果についてのコメントと照らし合わせながら、基準価額が上げ下げした原因を押さえてください。

さらに、基準価額の動きにどのような影響を及ぼしたのかは、ファンドに組み入れている資産構成がカギとなります。そこで参考になるのが「資産構成比」や「国・地域別、通貨別、セクター別などの構成比」です。‘どの資産’あるいは‘どこの市場’の変動が影響したのかは、これらの組み入れ状況からある程度推測できます。

ファンドを保有している間は、基準価額の動きに一喜一憂することがあるかもしれません。しかし、マンスリーレポートで資産構成や運用状況を把握しておくことで、基準価額が一時的に大きく変動した場合でも、その原因をある程度特定することができます。結果、その時々感情に左右されて、投資判断を見誤ることを低減することにもつながるのです。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00